

神奈川県革新懇ニュース

発行／平和・民主・革新の日本をめざす神奈川の会(略称 神奈川県革新懇)
発行者／齊田道夫 〒231-0021 横浜市中区日本大通17番地JPR日本大通ビル8階
横浜合同法律事務所 気付 Tel045-651-2431 FAX045-641-1916 年間購読料1200円+郵送料

革新懇の3つの共同目標

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします

2021年
3月号

No. 234

コロナ禍、県内状況と医療従事者の健闘

新型コロナウイルス感染症の大流行となって一年。私たちはこれまでにない経験をしました。これからの生活を考えるために、大流行となった要因、ウイルスとの闘い、これからの生活について、野末浩之神奈川県民医連会長に聞きました。



今月のひと

のずえ ひろゆき
野末 浩之さん

神奈川県民医連会長
医師

なぜ、近年新しい感染症が次々と発生しているのか

昨年1月にダイヤモンドプリンセス号が横浜に入港して、新型コロナウイルス感染症に対する対応が始まりました。かつてアジア地域ではマーズ、サーズの流行を経験していましたが、これらは幸運にも日本に来る頃には弱毒化して、大きな流行にはなりませんでしたが、ところが今回は、想像以上に強毒化し、かつ変異を繰り返して、大きな流行になりました。

地域に分け入ったことが要因だと考えられています。神戸女学院大学の石川康宏先生によれば、こういった感染症は、背景には気候変動を含む環境破壊がある。開発によって、アジアでも、北米、南米でも、アフリカでも動物たちで作っている生態系に人間が入り込んで行く。そのため動物たちの中では完結していたウイルスに我々が触れる。その動物たちにはたいした疾患にならないウイルスが、人間においては命を奪うようなものになる。そして、グローバル化によって短い期間で世界中に感染が広がるようになったのです。新自由主義的な経済活動が影響しているのは否定できません。

神奈川県で感染者が多い要因は

神奈川県でも感染者が増えてきています。神奈川県のような大都市部では、人口密度が高く「密」になりやすいことが、感染者が多くなる大きな要因だと思えます。もう一つは、都市部には、人との接触が避けられないエッセシャルワークが多く、そして横浜は港湾都市です。海外との物も人も行き来が多くあります。米軍基地があり、彼らはフリーパスで出入りしています。

医療従事者が奮闘している中で医療逼迫している中で

医療者として、これは大変だと感じたのは、昨年5月〜6月頃でした。未知の感染症に対する不安が大きくなったためか、一部の人間から、医療従事者がさまざまなバッシングを受けていました。そこで、民医連に働くすべての職員に、「どんなことがありましたか」とアンケートを取りました。その結果「感染者と接する機会が多い医療・介護関係者には、定期的なPCR検査や抗原検査を受けられる環境が担保されると、より安全性に配慮して業務ができる。誤解や偏見にさらされることも減るのではないか」と見解をまとめました。

感染を鎮静化させるために、私たちは

そのために、私たち医療者が防衛しなければならぬ。幸いそれまで保健所の指示がなればできなかったPCR検査が、医療機関でもできるようになったので、第三波を何とか乗り切りつつあるのではないかと考えています。このように保健所が濃厚接触者の追跡を放棄せざるを得なくなったのは、国が保健所の削減を推し進め、さらに横浜市は前の中田宏横浜市長の時代に、国の基準を超えて人員を削減したことが背景にあります。また感染症に対する公的な病院を減らしてしまっています。感染症の患者を受け入れられる病床が大幅に少なくなっていました。一般病床から感染症用病床への転換には工事等を必要とするため入院病床不足になったのです。しかし行政は、公的病院の統廃合を進め、病院を削減する計画を見なおそうともしていません。介護施設にいたる高齢者のクラスターがなかなか減りません。介護施設から感染者が出て、入院する病院がないために、介護施設で面倒を見るように指示が出ているからです。医療施設ではない介護施設が感染拡大防止に駆り出されたのです。介護施設は懸命にこの役割をはたし続けています。しかし感染予防対策のための、介護報酬の上乗せはされていないのです。新型コロナが沈静化しても、また新たな感染症は必ず起こります。今年も総選挙があります。国民の健康のためにも、医療体制を充実させる政権を実現させましょう。